

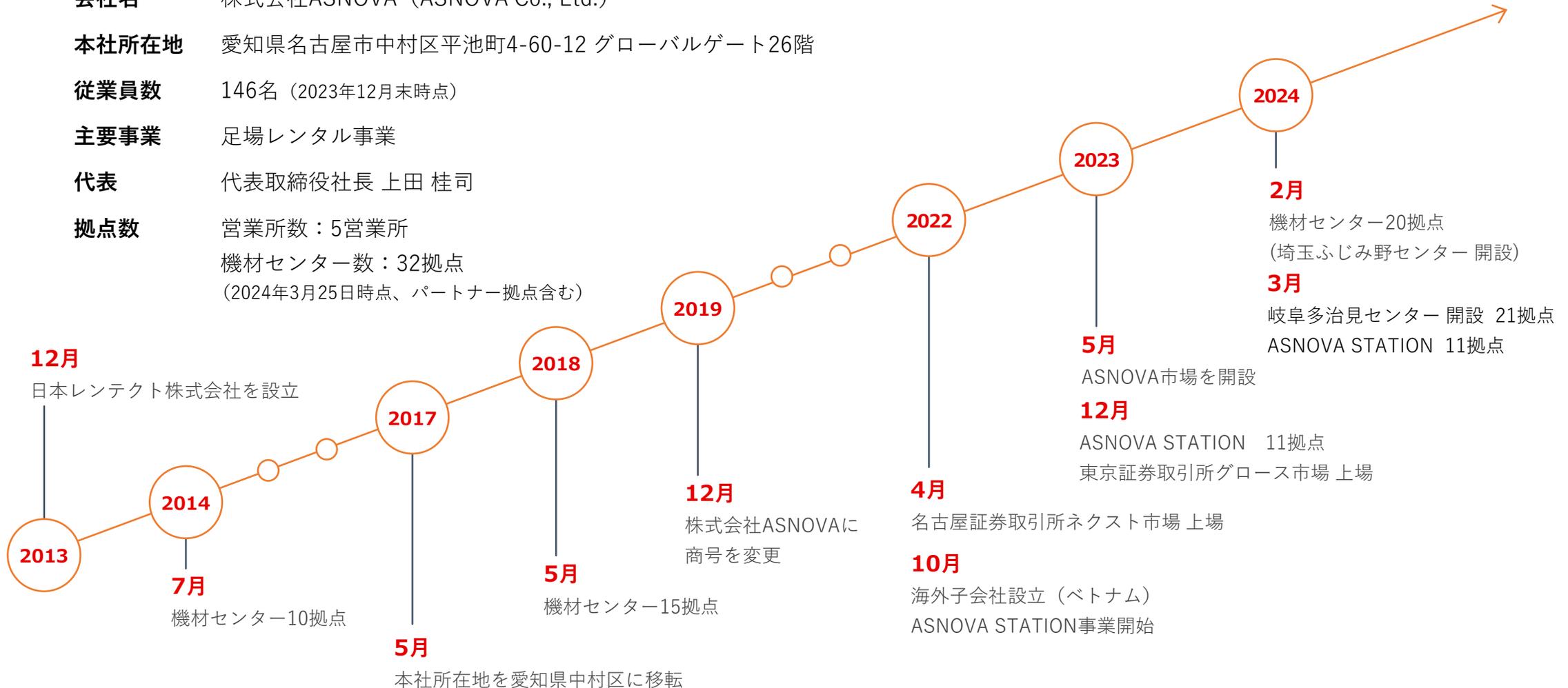
ASNOVA

岐阜多治見センター新規出店について

証券コード：9223

# 会社概要

会社名	株式会社ASNOVA (ASNOVA Co., Ltd.)
本社所在地	愛知県名古屋市中村区平池町4-60-12 グローバルゲート26階
従業員数	146名 (2023年12月末時点)
主要事業	足場レンタル事業
代表	代表取締役社長 上田 桂司
拠点数	営業所数：5営業所 機材センター数：32拠点 (2024年3月25日時点、パートナー拠点含む)



## 顧客が足場レンタル会社を選定する際に重要視する項目

- ・ お客様の声から、レンタル会社を選定には在庫量、拠点の近さ、機材の品質が重要である傾向を把握。
- ・ 「いつでも、近くで、安心して」をお客様は求めている。



# 2024年3月期 出店戦略

— 2024年3月期 出店戦略

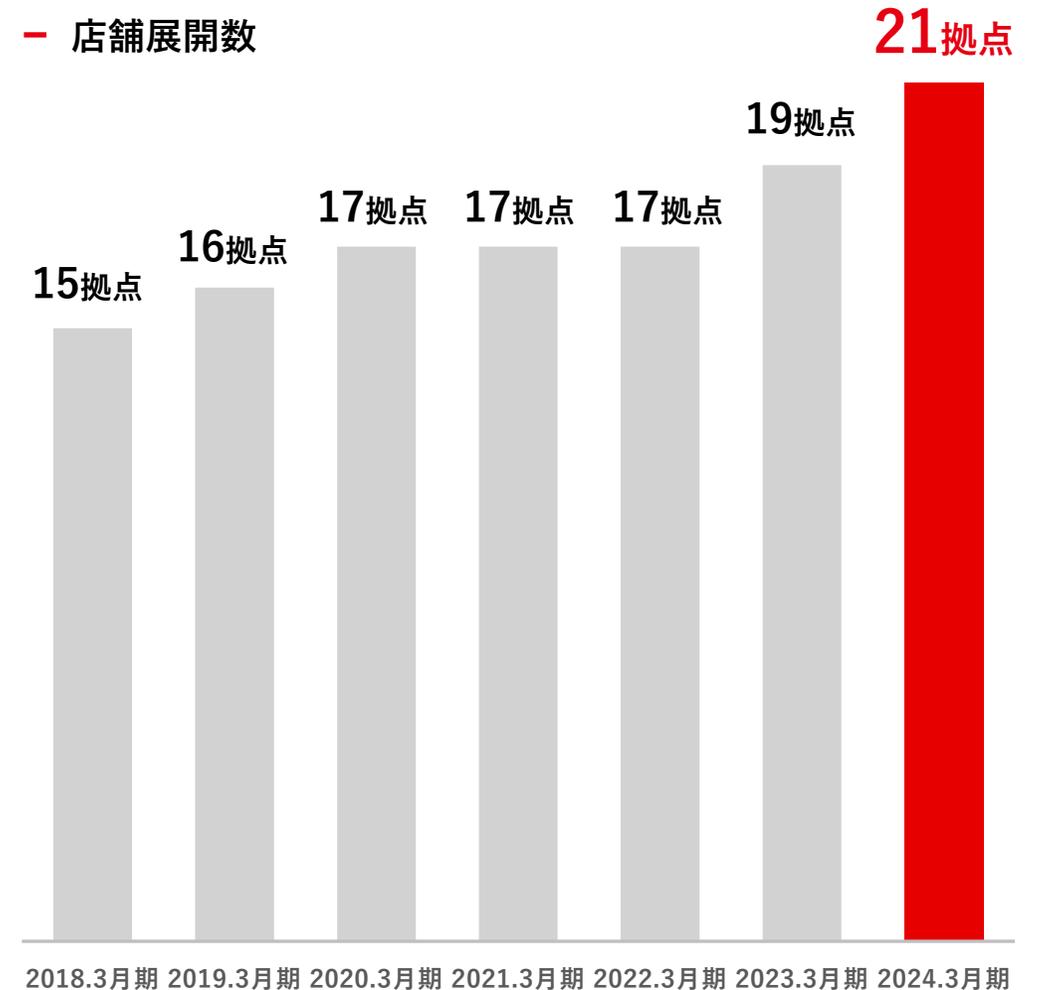
## 社会的ニーズに応え、拠点を拡大

岐阜県多治見市に3月25日機材センターを新規出店。

社会課題をいち早く解決  
するため、環境を整備し、  
全国各地に機材センター  
を出店していく。



— 店舗展開数



## 出店戦略による新たな市場の開拓

社会課題をいち早く解決し「いつでも、近くで、安心して借りれる」環境を整備するため、全国各地に機材を提供する機材センターの新規出店を効果的に行っていく。

需要者が集積している地域に  
高密度・多店舗出店を目指す

住宅着工数の多い都道府県

基幹産業の多い都道府県

将来人口予測で人口減少の少ない都道府県

### 出店により新たな市場の開拓

より近く、より便利を  
モットーにこれらの拠点を  
起点としたドミナント出店を展開

当社の機材センター出店基準により新規機材センターを設置。  
営業開始後、地域商圈や顧客ニーズのデータ化による  
分析を行い需要の多いエリアに集中的に多店舗出店を行う。

## 岐阜多治見センター 出店理由

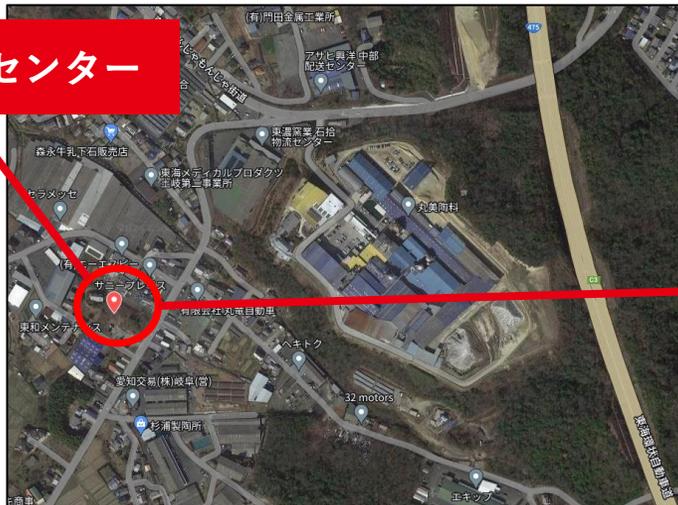
— 岐阜多治見センター 出店理由

## 岐阜多治見センター 出店概要

付近に競合する足場レンタル会社が少ないことと、多治見市以東に位置する大型既存顧客様への利便性UP、岐阜県東濃エリアや長野県南信エリアの新規顧客の獲得と売上を貢献できるセンターとして開設。

所在地	〒507-0901 岐阜県多治見市笠原町1248-13
オープン日	2024年3月25日開設
敷地面積	1,724坪 (5,701m <sup>2</sup> )

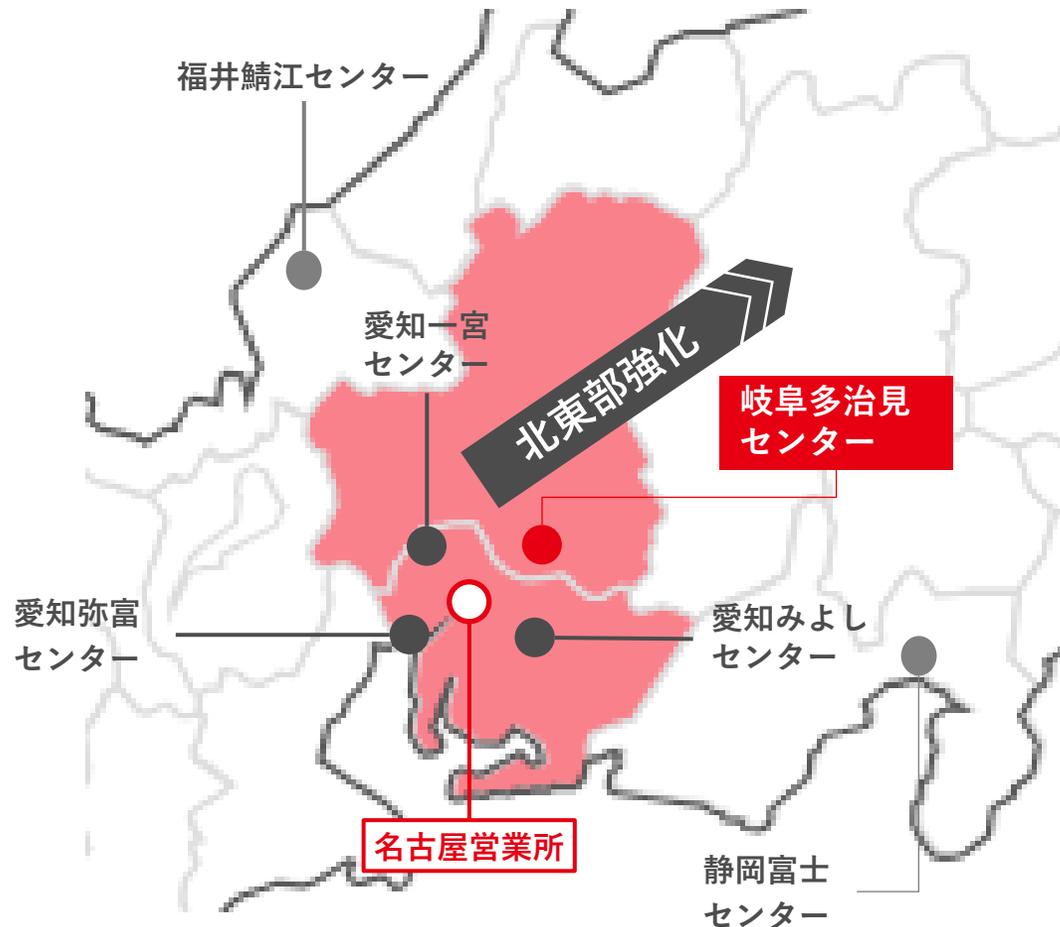
岐阜多治見センター



— 岐阜多治見センター 出店理由

## 東海エリアの更なる強化

岐阜県、愛知県、長野県の三県にアクセスの良い岐阜多治見センターを新規出店することで中部エリアの北東部のシェアを更に拡大し、既存顧客への利便性と新規顧客獲得を狙う。



### ドミナント戦略

#### ニーズの把握

右記の3センターからレンタルしている既存顧客が複数

愛知みよし

愛知一宮

愛知弥富

既存顧客への利便性向上とともに、新規顧客を獲得する

#### エリアの強化

岐阜県を起点にエリア拡大・強化による利便性向上

愛知県

岐阜県

長野県

市場の大きい中部エリアで更なるシェア拡大を目指す

## 今後の展望

## 足場レンタル需要の拡大

近年「マンションリフォーム」「住宅リフォーム」「自然災害」の増加により足場の需要が伸びる。

### 増える社会課題と工事需要



<社会課題>

老朽化マンションの増加



<需要>

マンション修繕工事の増加



<社会課題>

中古住宅の増加



<需要>

住宅リフォーム工事の増加



<社会課題>

環境変化による自然災害増加



<需要>

災害予防工事や復興工事の増加

— 今後の展望

## 積極的な出店戦略

「いつでも、近くで、安心して」借りられるを実現し、レンタル事業を広めることで循環型社会への貢献を目指す。

社会課題やニーズに応え、  
継続的な機材センターの  
新規出店を展開していく

**岐阜多治見センター**  
2024年3月25日新規出店

**埼玉ふじみ野センター**  
2024年2月26日出店

● ASNOVA機材センター

2024年3月期

**21拠点**

● パートナーと連携したSTATION事業拠点

2024年3月期

**15拠点**

※パートナーと連携したSTATION事業拠点の展開図はイメージとなります。

## 社会的課題に対応し、循環型社会の実現へ

気候変動や資源不足などの社会課題に対処するため、モノを皆でシェアするというビジネスモデルへの転換が重要。足場レンタルは「足場をシェアする」という循環型ビジネスであり、社会課題の解決にも貢献する。

### これまでのビジネスモデル

- 大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした「**直線型ビジネス**」

### 社会課題

- 気候変動や資源不足が世界レベルで深刻化
- 自然災害の急増により、家屋の損壊などが年々増加
- マンションをはじめとする建物の老朽化も問題に

### 価値観の変化

- SDGsに代表されるように、持続可能な社会への意識が高まる
- モノの所有に対する意識も変化。社会の共有財産として、必要なときに必要な量をシェア・レンタルする考え方が浸透

### 期待されるビジネスモデル

- モノを皆でシェアする「**循環型ビジネス**」への転換

